



1 - 2. 沖縄県内における関係事業等の取組実績

1 - 2. 沖縄県内における関係事業等の取組実績

既に県内では民間企業等において国際的な取組が進められており、単なる親善に留まらない深い交流を実現する／可能性を有する事例も見られる

- 地域外交は官民の既存の国際的な取組を包含する活動となることが求められる中、既に県内で一步踏み込んだ活動を行っているプレイヤーの動向を把握した上で、地域外交の基本方針を形作っていることが必要である。
- 本事業では官民のうち民に特に着目して、特徴的な取組についての調査を行い、調査結果として取りまとめた。
 - B2C（消費者向け商品・サービス提供）企業では、沖縄ならではの特徴（特産品、価値観等）を活用した輸出を行う事例が存在し、沖縄の良さを活かしながらも徹底した現地化を行うことで、海外現地に受け入れられる形で取組を行う。
 - 電力や防災等のインフラ関連企業では、沖縄ならではの技術やノウハウを活用し、特に島嶼国・地域におけるインフラ整備に取り組む事例が存在し、その際にJICAによる事業支援を受けていることも特徴的である。
 - 大学ではOISTを中心に国際的な取り組みとして、学術・人的交流を進めている。特にOISTは世界に通用する研究機関として150を超える世界各国の団体や研究機関と国際共同研究を実施しており、特筆に値する。
 - また、琉球銀行のように国際化のための資金を提供する財団を創設し、県民等の草の根的な国際交流を維持・強化することに貢献している事例も存在する。
- 県内では民間企業や大学等の団体が既に国際的な取組を行っており、地域外交がこれらの活動を包含することはもとより、これらの活動をより促進し、活動同士の連携を図っていくこと調整機能を有することが重要と考えられる。

県内の取組事例_RYUKYU1429 (食品・飲料)

県内の有力泡盛酒造が集い、海外輸出用のブランドである「RYUKYU1429」を立ち上げ。現地のバーや酒類関連の専門家と連携し、泡盛を現地に根付かせる取組を行っている

- 忠孝酒造株式会社、株式会社久米島の久米仙、瑞泉酒造株式会社及び県内IT・コンサルティング会社である株式会社Blueship沖縄により、泡盛の海外輸出用のブランドであるRYUKYU1429を立ち上げた。
- カクテル文化が普及し、高い度数のお酒が好まれる欧州への輸出を進め、アイスランドを皮切りに欧州主要国への輸出を実現。今後、北米やアジアへの展開も志向する。
- 商品を輸出する上で、現地のバー等と連携したオリジナルカクテルメニューの開発による定番化を試みる等、徹底した現地化の取組が特徴的である。

RYUKYU1429の概要

構成企業	忠孝酒造株式会社、株式会社久米島の久米仙、瑞泉酒造株式会社（以上県内酒造メーカー） 株式会社Blueship（全体取りまとめやブランディング、商社機能を担う）
沿革	<ul style="list-style-type: none"> • 2016～2017年度に実施された「泡盛海外展開支援連絡会議」を契機に、上記4社で「琉球泡盛ブランド構築（ハードリカープロジェクト）に関する連携協定」を締結 • 2018年にRYUKYU1429というオリジナルブランドを設け、アイスランドでの配給を開始。 • 2019年度以降、オランダやスウェーデン、スペイン等欧州他国に展開
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> • 商品は久米島の久米仙が製造する「MIZU」、忠孝酒造が製造する「TSUCHI」、瑞泉酒造が製造する「KAZE」の3種類。 

欧州におけるプロモーション活動



一般的な試飲会等に留まらず、カクテル・コンパ等より現地に根付くような仕掛けを実行(2018年度)



現地のバーやレストランと連携し、オリジナルカクテルメニューを開発し、メニュー化(2020年度)

県内の取組事例__株式会社マブイストーン（コンテンツ）

沖縄の自然・文化を色濃く盛り込んだTVシリーズ「琉神マブヤー」をマレーシアにて放映。 コンテンツに留まらず、関連グッズや旅行誘致等、関係深化の機運醸成に繋がる取組である

- 沖縄発ご当地ヒーローである「琉神マブヤー」は県内でTVシリーズが放映され、好評を博している。沖縄の自然や文化が色濃く盛り込まれており、意図的に一般的な戦いによる勧善懲悪のストーリーを排している点も含め、「沖縄色」の強いコンテンツ。
- 2014年に「琉神マブヤー」のマレーシア版である「琉神ジュワラー(RYUJIN JUWARA)」を放映。内容はマレーシアの文化や風習を取り込む等ローカライズしているものの、主人公が沖縄で空手を学ぶシーンを盛り込む等、「沖縄色」は残している。
- 関連商品の現地販売等を含め、単なるモノ・サービスの販売に留まらず、海外市民と沖縄の関係深化のきっかけとなるような海外展開事例と考えられる。

株式会社マブイストーンの概要

企業名	マブイストーン
会社概要	<ul style="list-style-type: none"> 佐賀に本社を置く株式会社シーズ・ライブのグループ企業として、沖縄県那覇市に本社を置く
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> キャラクター（沖縄発ご当地ヒーローである「琉神マブヤー」）コンテンツ及びその付随商品の販売 マレーシアにおいてローカライズを行い、現地企業と共同でTV放映や関連グッズの販売等を行う

Ryujin Mabuyer(Kanai) destroys evil

After the enough training, Kanai was permitted to fight again by gods. The day comes.

He made an amazing decision how to fight with the vice general of evil corps, his

brother Nirai. The way how he fight is "he does NOT anything," which means he doesn't fight and accept his brother as he is. His brother, Nirai, impressed and touched deeply by Kanai's spirit, and his heart changed. He awoke what the justice is and how wonderful Okinawan spirits is. Ryujin Mabuyer destroyed the Evil, and the peace returns to Okinawa.

戦わず相手を受け入れ、「何もしないこと」で敵と戦う等、一般的な勧善懲悪型とは異なるストーリー展開が特徴的

1. Majimun means deity in Okinawan language.
2. North part of Okinawa Island is called Yanbaru which is mostly woods.
3. A bird only lives in Yanbaru area. Natural monument.



「琉神マブヤー」に関する沿革

- 2008年
南西産業が県内各社を巻き込み、ご当地ヒーローである「琉神マブヤー」を企画、県内テレビ放映が行われた
- 2010年
香港フィルマートにおいて琉神マブヤーを出展。後日、マレーシアの担当者よりマレーシア版制作の打診あり
- 2012年
中小機構のF/S事業に採択され、マレーシア現地調査等を実施
- 2014年
マレーシアスタッフ、キャストによる「琉神ジュワラー」放映開始、マレーシア国内での視聴率は、キッズ部門で1位、ドラマ部門で2位
- 2015年
TVドラマの「Ku Tinggalkan Cinta Di Okinawa（邦題：沖縄恋物語）」を放映、放映に合わせて沖縄観光プロモーションを展開

県内の取組事例__沖縄電力グループ（電力インフラ）

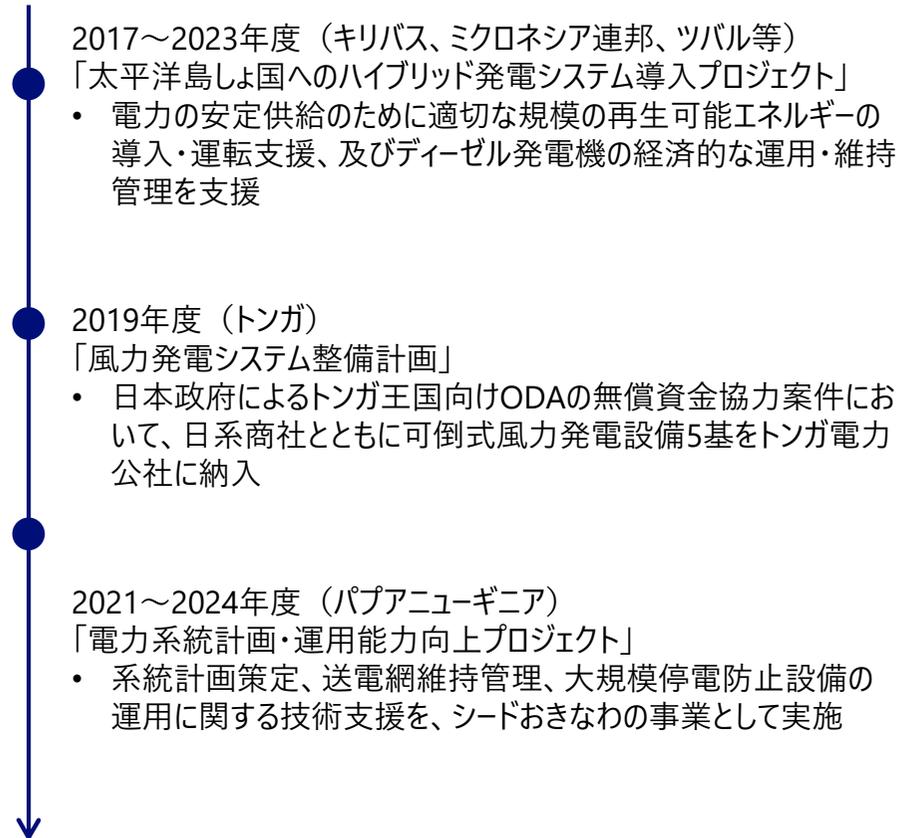
小規模電力系統安定化技術や離島における再生エネルギー運用技術を太平洋島嶼国にて展開。
 沖縄企業固有のノウハウを島嶼国の支援に活用できた典型例といえる。

- 沖縄電力ではグループでは、その地理的要因により、かねてから小規模電力系統安定化技術や離島における再生エネルギー運用に強みを有しており、その知見を太平洋島嶼国にて展開し、電力インフラ整備に関連するコンサルティング業等に活用していた。
- 2021年、沖縄電力グループはグループ内企業の共同出資により、海外事業推進を目的とし、電力インフラに係る商品・サービスをワンストップで提供可能な「シードおきなわ合同会社」を設立。
- 島嶼国における低炭素社会の実現と持続的なエネルギーの普及への貢献だけでなく、沖縄固有の企業のノウハウを活かした海外展開事例と考えられる。

沖縄電力およびシードおきなわの概要

企業名	沖縄電力
会社概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 沖縄電力グループの中核企業 ・ 沖縄県浦添市に本社を置く
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 沖縄本島を含む37の有人離島に電力を供給 ・ 社内に相互に独立した11の電力系統を有する
企業名	シードおきなわ
会社概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 沖縄電力グループ6社による共同出資企業として沖縄県浦添市に本社を置く
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 沖縄電力グループの強みを活かした海外事業展開 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 再生可能エネルギーに関する調査、コンサルティング及び技術・ノウハウの販売 ➢ 風力発電、太陽光発電及び関連設備の企画、設計、販売、施工、運転及び保守 ➢ 再生可能エネルギー事業案件への投資

沖縄電力グループの海外事業



県内の取組事例__レキオソフト株式会社（災害・防災）

ウチナンチュネットワークでの交流を契機に災害予測・防災システムのペルーへの導入を企図。 世界各地に存在する沖縄県系人の連帯を示す取組である。

- 2002年創業のレキオソフトは災害予測・防災関係のシステム開発に強みを持ち、緊急地震速報のバックシステムの開発等にも参画している。
- 日本と同様地震災害の多い地域への海外展開にも関心を持っており、現地法人設立による台湾への進出と現地気象局向けにシステムを納入した経験を有する。
- 現在、環太平洋火山帯に位置し、地震や津波、洪水など自然災害のリスクを抱えるペルーへの進出を企図しているが、その契機となったのは世界各地の沖縄ビジネス関係者との交流イベントであり、企業の海外進出にウチナンチュネットワークが活用された事例といえる。

レキオソフト株式会社の概要

企業名	レキオソフト
会社概要	・沖縄県那覇市に本社を置くIT企業
事業内容	・気象・災害予測・防災システムの開発を中心とするソフトウェア開発及びネットワーク・サーバ構築
主な製品	<ul style="list-style-type: none"> ・地震活動等総合監視システム ・地域地震情報センターデータ処理システム ・火山監視・情報センターシステム ・火山灰情報提供システム ・航空気象実況データ収集処理システム ・その他政府系特定システム ・その他車載組込ソフトウェア

レキオソフトの海外事業

- 2013年
子会社「磊客思科技股份有限公司」を台湾台北市に開設しNECなどとの共同実証実験を経て、台湾気象局向け規定地震観測システムの開発と関連するサーバを構築
- 2014年
代表取締役柴寄淳氏がワールドワイド・ウチナンチュ・ビジネス・アソシエーション（WUB）にメンバーとして参加し、関係者より地震予測システムのペルーへの展開可能性について共有される
- 2018～2019年
JICA中小企業海外展開支援事業の採択を受け、現地にて日本式早期地震検知システムの案件化調査を開始
- 2020年
JICA中小企業・SDGsビジネス支援事業普及・実証・ビジネス化事業に採択され、技術提携するNECとともにペルー沿岸部で市捨て宇の実証活動を開始

県内の取組事例__沖縄科学技術大学院大学 (OIST)

沖縄県の学術・研究機関として、地域社会との連携を強化するとともに、全世界と学術・人的交流を有し、学術界でも国際的に高い評価を獲得している。

- 2001年から構想され、2011年に学校法人として設立。設立目的として掲げたのは、「**国際的に卓越した科学技術に関する教育及び研究を実施することにより、沖縄の振興および自立的発展と、世界の科学技術の向上に寄与すること**」
- 持続可能な沖縄経済創出のため、OISTが科学技術とイノベーションによる起業拠点となることを企図しており、キャンパス内で活動するスタートアップ企業や起業家チームの増加を図っている。
- **沖縄県を基盤としつつ、世界的な評価を獲得し、かつグローバルな問題に対処する能力を有する学術機関**と考えられる。

OISTの概要

学校名	沖縄科学技術大学院大学
概要	<ul style="list-style-type: none"> • 沖縄県国頭郡恩納村に本部を置く5年一貫性の博士課程を有する大学院大学
特色	<ul style="list-style-type: none"> • 教育はすべて英語で実施され、外国人で構成比は教員の62%、学生の80% (2023年5月現在) • 化学、数学、物理学、生物学、計算機科学、工学・応用科学、海洋学、生態学・進化生物学、神経科学の9領域について研究を実施するとともに、異分野間の共同研究にも積極的

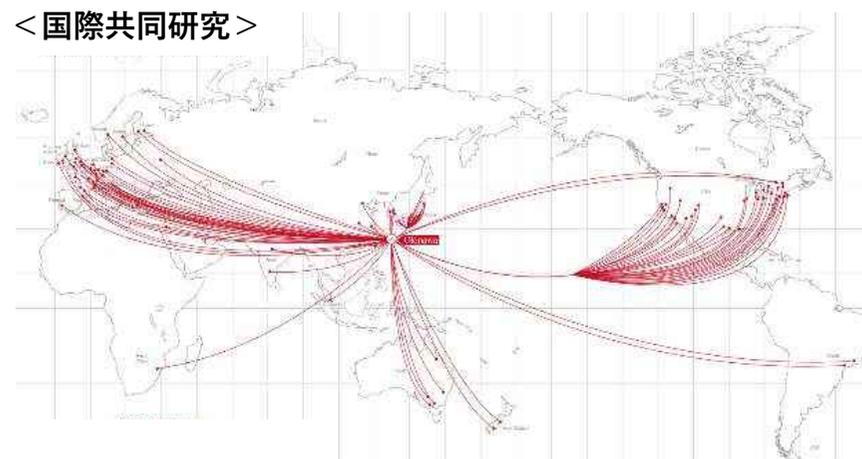
9. Okinawa Institute of Science and Technology Graduate University

Fractional count: 29.76, Article count: 65, Nature Index rank: 360

The Okinawa Institute of Science and Technology Graduate University (OIST) is one of the most diverse institutions in the world, with a high percentage of international faculty and students. OIST is ranked 9th in the world in the 2019 Nature Index ranking, based on its normalized fractional count, with the physical and life sciences being the largest contributors to OIST's overall output.

OISTの実績

< 国際共同研究 >



30か国、150以上の団体/研究機関とともに国際共同研究を実施

< 産学連携による知的・産業クラスターの形成 >

- 国内外の展示会において積極的に研究成果を発表し、県内外の民間企業121社と連携 (2014年)
- 健康、エネルギー、イメージングなどの分野において約220の特許を保有 (2022年)
- 28社のスタートアップがOIST内で活動 (2021年)

県内の取組事例__琉球大学

琉球大学では沖縄の地理的特性や歴史的背景を取り入れた教育・研究を実施しており、アジア太平洋地域との連携と学術・人的交流を活性化させている。

- 米国施政権下の1950年に創設された琉球大学は、戦後の平和な社会建設の礎として、「自由と平等・寛容と平和」の理想を建学の精神とした。
- 現在は建学の理念を継承・発展させて「真理の探求」、「地域・国際社会への貢献」、「平和・共生の追求」を基本理念としている。
- 琉球大学が掲げる諸目標には沖縄の特色ある地理的条件や歴史的経験を活用する意思が反映されており、これらの特色を生かした国際交流活動を実施している。

琉球大学の概要

学校名	琉球大学
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄県に所在する唯一の国立大学かつ総合大学として沖縄県中頭郡西原町に本部を置く
特色	<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄の立地特性を活かして農学、医学、防災工学、環境学などの研究分野に強みを有する ・沖縄固有の文化、歴史、自然環境に焦点を当てた教育科目を有する



沖縄固有の自然環境に活用した唯一無二の研究施設を擁する。サンゴ礁や海洋生物学研究の国際的な拠点として、国内外の研究者が施設を訪問。

出所) 琉球大学公式サイトより作成

国際展開力強化事業・環太平洋地域との連携

- ・ グローバル人材の育成と大学のグローバル展開力の強化を目指して文部科学省が2011年から開始した世界展開力強化事業において、琉球大学は、オンラインを活用した国際的な双方向学習(COIL)を展開。(2018年～)



環太平洋地域の大学、短期大学との連携が深く、COILにおいて琉球大学の学生は自身の研究内容、興味関心分野、授業の目的等に応じて連携教育機関の教員との個別のパートナーシップの下で学習することができる。

県内の取組事例__りゅうぎん国際化振興財団

琉球銀行によって設立されたりゅうぎん国際化振興財団では、県内各種団体の国際交流の取組に資金を助成し、草の根的な交流を維持・強化している

- 「りゅうぎん国際化振興財団は、沖縄県経済の国際化を推進するため、諸外国との人的、経済的交流に資する事業等の実施及び助成を行うことを通じて、国際相互理解を図り、もって沖縄県の国際化に寄与することを目的に設立されました」 -琉球銀行ウェブサイト
- 1988年に設立され、2013年に一般財団法人化。
- 対象としては、沖縄県人の国際交流や留学に対する支援に加え、県内在住外国人や、沖縄にルーツを持つ外国人も含まれ、テーマ的にもシンプルな国際交流から文化交流も含め、幅広く沖縄に係る国際交流の活動を支援している。

りゅうぎん国際化振興財団による助成先事業概要（2019年度）

<p>災害時外国人支援体制整備事業</p> <p>沖縄県国際交流・人材育成財団の事業。 災害時外国人支援サポーターの養成講座を開く等、外国人住民の災害対応に関する意識向上に繋がる取り組みを実施。</p>	<p>SDGs達成に向けた次世代沖縄国際人材育成プロジェクト</p> <p>NPOレキオウイングスの事業。 県内大学生を対象に、ワークショップ等を開催して次世代の沖縄の中核として国際交流・国際協力に係る担い手になるよう育成を実施。</p>	<p>国際交流・沖縄伝統空手国際セミナー開催事業</p> <p>沖縄県空手道連合会の事業。 海外5カ国18名が、空手発祥の地である沖縄において沖縄三大流派に属する講師から指導を受け、鍛錬習得を行った。</p>
<p>キャンポリー、オーバーナイトウォークラリー開催事業</p> <p>日本ボーイスカウト沖縄県連盟の事業。 県内在住の日米スカウトがキャンプ、ゲームやオーバーナイトでの長距離ハイクといったプログラムを実施し、国際交流と友情の深化を行った。</p>	<p>沖縄ヘルーツを探る旅開催事業</p> <p>IAPE(外国人児童生徒保護者交流会)の事業。 沖縄にルーツを持つ児童生徒や保護者が沖縄にいる親戚を訪ね、つながりを確認。主に移民政策によって南米に移民し、その後帰国した家族が対象。</p>	<p>地震被災障害者のエンパワメント研修事業</p> <p>NPO沖縄県自立生活センター・イルカの事業。 ネパールから研修生を招聘し、技術支援として重度障害者の地域生活支援のモデルケースを確立。担い手不足だけでなく、多文化共生・理解の醸成に繋がる取り組み。</p>
<p>Okinawan Dreams Project</p> <p>宮里大八国際交流基金の事業。 沖縄における児童養護施設やひとり親家庭等の子どもたちを対象に、英語教育やアジアにおけるインターンシップ・ホームステイ等を実施。</p>	<p>日本・東ティモール生徒交流プログラム事業</p> <p>宮良多鶴子（歌手）氏の事業。 沖縄県や他県において東ティモールから子どもを招聘し、県内の小中学校、児童養護施設、空手道場等で交流を行った。</p>	<p>沖縄スリランカ教育交流事業</p> <p>沖縄スリランカ友好協会の事業。 公開シンポジウムを開催し、スリランカから学校教諭及びジャーナリスト1名を招聘し、日本の教育関係者等と意見交換の場等を設けた。</p>